

## 冬期におけるニホンイシガメの発見例

谷口真理・清水善吉

515-0835 三重県松阪市日丘町1386-17 三重自然誌の会

Records of *Mauremys japonica* in winter rivers.

By Mari TANIGUCHI and Zenkichi SHIMIZU

Mie Natural History Research Group 1386-17, Hioka-cho, Matsusaka, Mie, 515-0835, Japan.

ニホンイシガメ *Mauremys japonica* (以下、イシガメ) は、日本固有の淡水カメであるが、近年、個体数の減少が危惧されており、保全が急務である。しかしながら、本種の生態に関する知見は少なく、特に冬期における情報はほとんど見あらず、その生態については不明な点が多い。今回、奈良県宇陀市内の宇陀川水系の2河川においてイシガメを確認したので、以下に報告する。なお、発見時、著者らは特別天然記念物オオサンショウウオの幼生調査のため、河川内を踏査中であった。

### 水中で活動中の個体を発見した事例

2018年1月31日に、水深70cmほどの水中に留まっていたイシガメ雌1匹と雄3匹を発見した(図1)。雌1匹の周囲に雄3匹が囲むようになり、このうち1匹の雄は、雌の尻部に頭を突っ込んでいた。いずれの個体も完全に静止状態ではなく、鈍いながらも動いている様子がみられた。また、いずれの個体も成熟に達しているサイズと思われた(事例1)。2019年2月16日に、水深60cmほどの水中にイシガメ2匹を発見した。1匹は腹甲長8.2cm、体重140gの雄であった。もう1匹は、少し目を放したすきに逃げられたため捕獲には至らなかったが、もう1匹と同じくらいのサイズの雄であった。発見時の気温は5.5度、水温5.5度であった(事例2)。

### 落ち葉溜まりの中で個体を発見した事例

2017年2月7日に雌1匹(事例3)、2018年2月1日に雌1匹、雌雄不明1匹(事例4)、2018年2月28日に雄1匹(事例5)、2019年2月17日に雌雄不明1匹(事例6)の合計5匹を発見した。いずれの個体も、オオサンショウウオ幼生調査のために川床に堆積した落ち葉をさらったところ、その中から発見した(図2)。発見時、いずれの個体も四肢を甲羅の中に完全に引っ込めた静止状態であったが、捕獲後数分後には活動を開始したので、完全な冬眠状態ではなかったと思われる。発見場所の水深は30cmから1m程であった。



図1. 冬期に水中で活動中を発見されたイシガメ(2018年1月31日撮影) ※図中央の最も大きな個体が雌、その右側の2匹が雄

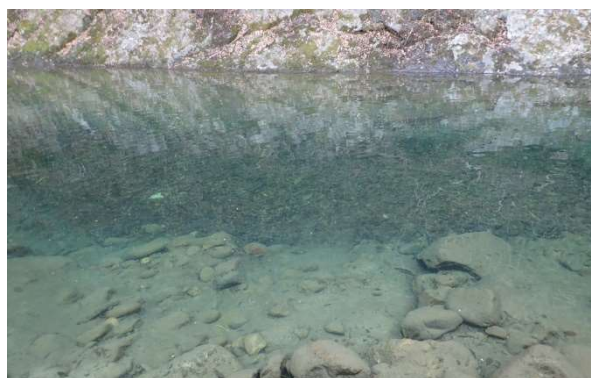


図2. イシガメが発見された川底に落ち葉が堆積した地点

表1. 冬期に発見されたイシガメの発見日時、個体数やサイズなど

事例	発見状況	発見日	時刻	気温 (°C)	水温 (°C)	水深	発見個体数			サイズ
							雄	雌	不明	CL: 背甲長、PL: 腹甲長、BW: 体重
1	水中で活動中	2018年1月31日	16:30			70cm	3	1	0	未計測
2	〃	2019年2月16日	15:30	5.5	5.5	60cm	2	0	0	CL10cm、PL8.2cm、BW140g
3	落ち葉溜まりの中	2017年2月7日				1m	0	1	0	PL9.8cm、BW193g
4	〃	2018年2月1日	14:15			40cm	0	1	1	雌: CL約10cm、 雌雄不明: CL約5cm
5	〃	2018年2月28日	13:30	13.6	6.6	1m	1	0	0	PL8.2cm、BW132g
6	〃	2019年2月17日	14:15	5.9	5	30cm	0	0	1	CL50.1mm、PL42.0mm、BW20.2g

以上のように、1月から2月の冬期に合計11匹のイシガメを発見した(表1)。イシガメは、1月から3月にかけては、水温の低下に伴って冬眠し、ため池の泥や落ち葉がたまった浅い池底や、河川内の流れの緩やかな淵・横穴などの場所を冬眠に利用するとされる(矢部, 2007)。今回、発見した11匹のうち5匹は、河床に深く堆積した落ち葉溜まりの中から発見されたことから、本種はこのような場所も越冬場所として利用していることが示唆された。また、冬期であっても、寒さの厳しさによってはイシガメが完全に冬眠しない地域も存在するとされる(栃本, 1993)。今回、水温5.5度の水中内においても活動中のイシガメが確認されたことから、本地域では冬期においても冬眠状態にない個体が存在することがわかった。

最後に、近年、イシガメに対して外来種であるアライグマによる食害が日本各地で報告されている(例えば鈴木他, 2015や小菅・小林, 2015など)。本地域でもアライグマの目撃(2017年5月19日)や足跡を多数確認しているが、四肢が欠損したイシガメや被食された死体についての報告はない。今回の調査において、イシガメは水深30cm~1mのところで発見されており、仮にアライグマが捕食しようにも物理的に困難だと思われる。アライグマからの食害を受けるか否かは越冬場所等の生息環境も影響している可能性が高い。今後はより詳細な越冬場所について可能な限り調べていきたい。

引用文献

小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水カメ類の危機. 爬虫両棲類学会報 2015(2):167-173  
 鈴木 大・會津光博・菊水研二. 2015. アライグマの食害を受けたと考えられるニホンイシガメ. 爬虫両棲類学会報 2015(1):15-17.  
 栃本武良. 1993. ヌマガメ類の越冬生態. ため池の自然 17:3-4.  
 矢部 隆. 2007. 今, 絶滅の恐れのある水辺の生き物たち ニホンイシガメ. 山と溪谷社, 東京. p.107-128.